

2025 年度中国語学科 中期留学成果報告レポート

提出者：岡山 奈由

所属：中国語学科 3 年次

西安外国语大学での授業内容は本学の授業と似ていて、先生に当てられて答えたり、周りのこと話し合うことが多かったりした。とにかく声に出すということが多かったが、聞いて見ているだけでは会話はできないため、話すことが重要だと感じた。

インターンシップ活動では毎回授業の最初に日本の文化や食などを日本語と中国語で紹介した。現地の学生さんは日本のこと興味をもって日本語を勉強しているため、関心をもって話を聞いてくれたり、日本語の敬語が難しいから教えてほしいと質問に来てくれたりした。私が留学を通して成長したところは、町の人たちと会話をするとき、初めはほとんど聞き取ることができず、ごまかしていたり、何度も聞き返してやっと理解できたりしていたが、途中から聞き取れることが増え、授業で習った単語や文法が日常で使っていると実感して嬉しくなった。

現地では、インターンシップ活動や言語パートナーである中国人学生と交流することができ、日本語と中国語を交えて会話を楽しんだり、観光地を案内してもらったりした。クラスメイトには様々な国からの留学生がいて、一緒に遊びに行ったりご飯を食べたりすることで、それぞれの国の習慣を教えてもらったり、日本語を教えたりと交流ができた。

日本には多くの中国人がいることから、将来きっと役に立つと思い中国語を勉強し始めたが、学生のうちに中国への留学という経験ができる本当に良かったと感じている。